

---

# 君が望んだもの～永久の守護者

黒猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君が望んだもの〜永久の守護者

### 【Nコード】

N3896I

### 【作者名】

黒猫

### 【あらすじ】

孫堅と主人公、仲間たちとの叙事詩である

## 呉を建国させた三人

屋敷の中を慌ただしく動き回る者たち。左右、両方から人が交差するにも関わらず、衝突事故など起きる気配さえ伺えない。まるで、何度も同じことをしてきたかのような動きだった。

「中庭におられません！」

「なんじゃと！森の方はどうか？」

「こちらにもおられないです！」

「いったい何処に行かれたのじゃ！」

薄ピンクの髪を背中まで靡かし、ポニーテールにしている美しい女性が動き回る者たちの指揮を執っていた。

そこに、一人の少年が近寄ってくる。漆黒のレインコートを身に纏い、片目を仮面で隠している。周りの者の格好からして、その者は浮いていた。

「慌ただしいな。何かあったのか祭？」

「うん？刹那か！丁度よい！手を貸してくれ。あの方がまた逃げられたのじゃ！」

「またですか…！」

やれやれと首を振りながらため息を吐き、仕方ないといった顔で刹那は了解した。

「お主の気配を感じ取る能力ははずば抜けているじゃろ。それで、分からぬか？」

「どうか…。あの人は最小限まで気配を消す人だからな。」

そう言いながらも刹那は集中しはじめ、気配を探り始めた。

至るところから感じとれる気配が多数ある。だが、どれも人の気配ではない。恐らくは虫や草花の気配だろう。

刹那の気配を察知する能力ははずば抜けすぎて、逆に感じ取る必要もない気配まで感じ取ってしまう。それが虫や草花だった。

いつしか動き回っていた者たちは足を止め、刹那の情報を待って

いた。

「……………見つけた！」

その瞬間、刹那は独自の移動法である瞬歩を使った。

瞬歩は戦の他で使うことなど滅多にない。にも関わらずそれを使ったのは相手が強者だからであった。

「あつたあつた」

酒瓶を持った美しい女性が食堂の隅でごそごそしている。

その後ろに近寄ってくる少年。刹那である。

「それをどうなさるおつもりですか？」

「えっ？」

おそろおそろ後ろを振り向いた女性は、笑顔が一瞬にして蒼白になった。

そこには刹那の鬼の形相があつたからだ。

「政務を抜け出して酒とは随分、余裕なこと。当然のこと、書類、竹簡は処理出来ていますよね」

「あはは…きやー！」

女性の叫び声は屋敷に響き渡り、刹那は猫を掴むように女性の首根っこを持ち上げ、祭の前に連れていった。

「美蓮殿、いい加減政務を抜け出すのはお止めくだされ」

「だってー、つまらないんだもん」

つまらないか…。これが我が主にして一国の王である孫堅である。

これが一国の王かと思うと情けなくなる。

「美蓮様、自分が手伝いますから政務をしてください」

「刹那と一緒に仕事が出るの！なら頑張る！」

やる気を出した美蓮は自分の部屋に戻っていった。

「すまぬ、刹那」

「慣れたさ」

一言だけそう言って、部屋に向かった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3896i/>

---

君が望んだもの～永久の守護者

2010年10月11日00時24分発行